

2019年12月23日

「静岡県内企業経営者の景気見通し調査(2020年1～6月期 B.S.I.)」

景況感は、2期連続のマイナス判断 製造業・非製造業ともに悪化し、先行きも厳しい見方

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、11月に実施した「静岡県内企業経営者の景気見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

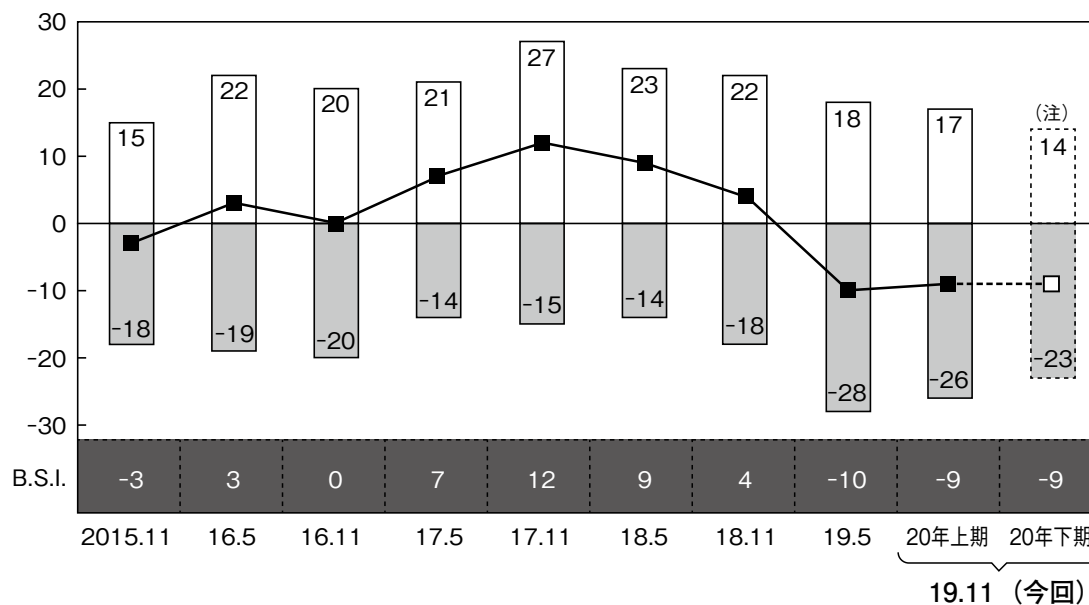
景気見通し

- 2020年上期（1～6月）のB. S. I.（業界景気見通し指数）は「上昇」（17%）が「下降」（26%）を△9ポイント下回り、2期連続のマイナスとなった。
- 人手不足やそれに伴う人件費の上昇懸念に加え、販売・生産数量の減少が利益を抑制すると予想しており、企業経営者の景況感は引き続き厳しい見方となっている。
- 全20業種のうち、「上昇」が4業種、「横ばい」が4業種、「下降」が12業種となった。「電気機械器具」（△17→+25）や「運輸・倉庫業」（△3→+15）などが持ち直しを見込んでいる一方、「卸売業」（+5→△44）や「ホテル・旅館業」（+20→△38）などが悪化見通しに転じている。
- 2020年下期（7～12月）においても、「上昇」（14%）が「下降」（23%）を△9ポイント下回り、悪化が続く見通しとなった。

※本件のお問い合わせ先 担当（森下 泰由紀）

景況感は、2期連続のマイナス判断 ～製造業・非製造業ともに悪化し、先行きも厳しい見方～

図表1 半期先の業界景気見通し



□ 上昇 (%)、■ 下降 (%) ■ B.S.I. (「上昇」と「下降」の差を指数化したもの)

(注) 2020年下期は2020年上期と比べた業績見通し

景気見通し (概況)

□ B.S.I. は2期連続でマイナス判断、2020年下期もマイナス続く

2020年上期（1～6月）のB.S.I.（※）による業界景気見通しは、「上昇」（17％）が「下降」（26％）を△9ポイント下回り、2期連続のマイナスとなった。人手不足やそれに伴う人件費の上昇懸念に加え、販売・生産数量の減少が利益を抑制すると予想しており、企業経営者の景況感は引き続き厳しい見方となっている（図表1）。

企業規模別にみると、大企業では「上昇」（12％）が「下降」（21％）を△9ポイント下回り、中小企業でも「上昇」（17％）が「下降」（27％）を△10ポイント下回った（次頁図表2）。

また、2020年下期（7～12月）においても、「上昇」（14％）が「下降」（23％）を△9ポイント下回り、悪化が続く見通し。企業規模別では、大企業で+3ポイントと改善の見込みとなったが、中小企業は△11ポイントと見方が分かれた（次頁図表2）。

（※）B.S.I.（Business Survey Index）とは、「上昇」と「下降」の差を指数化したもの。次頁の「調査の要領」を参照。

業種別見通し

□非製造業のマイナス幅が拡大、製造業もマイナス続く

2020年上期の業種ごとの見通しを前回調査と比べると、製造業（△17→△9）はマイナス幅が縮小するものの、3期連続で悪化の見通し。また、非製造業（△1→△10）も2期連続の悪化判断となり、マイナス幅も拡大した（図表3）。

業種をさらに細かくみると、全20業種のうち、「上昇」が4業種、「横ばい」が4業種、「下降」が12業種となった。「電気機械器具」（△17→+25）や運輸・倉庫業「△3→+15」などが持ち直しを見込んでいる一方、「卸売業」（+5→△44）や「ホテル・旅館業」（+20→△38）などが悪化見通しに転じている（7頁付表）。

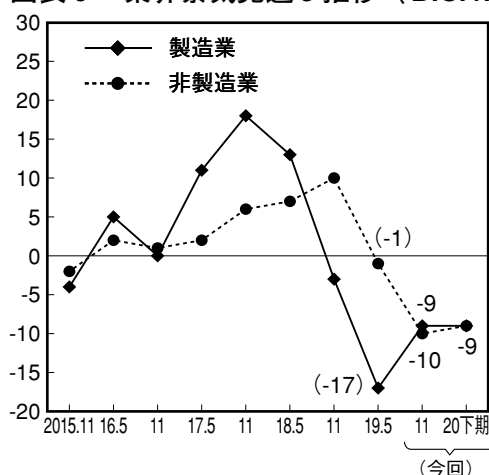
なお、2020年下期については、製造業（△9）、非製造業（△9）ともに、引き続き下降が見込まれる（図表2、3）。

図表2 業界景気見通し

(単位: %)

項目 業種別・規模別	回答 企業数	業界景気							
		2020年1～6月				2020年7～12月			
		上 昇	横 ばい	下 降	B. S. I.	上 昇	横 ばい	下 降	B. S. I.
全企業	303	17	57	26	△9	14	63	23	△9
大企業	36	12	67	21	△9	14	75	11	3
中小企業	267	17	56	27	△10	14	61	25	△11
製造業	157	18	55	27	△9	14	63	23	△9
大企業	13	0	92	8	△8	8	84	8	0
中小企業	144	20	51	29	△9	14	62	24	△10
非製造業	146	15	60	25	△10	15	61	24	△9
大企業	23	18	55	27	△9	17	70	13	4
中小企業	123	15	60	25	△10	15	59	26	△11

図表3 業界景気見通し推移 (B.S.I.)



注1) 本調査における中小企業とは、資本金3億円以下または従業員300人以下の企業（ただし卸売業では同1億円以下または同100人以下、小売業では同5,000万円以下または同50人以下、サービス業では同5,000万円以下または同100人以下）であり、それ以外を大企業とした。
注2) 「2020年1～6月」は「2019年7～12月」と、「2020年7～12月」は「2020年1～6月」と比較した見通しである。

調査の要領

- (1) 調査目的：この調査は、当研究所が1963年より毎年2回実施しているもので、静岡県内企業経営者の自社の業績見通しをもとに、業界景気を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象：静岡県内に本社をおく主要企業。
- (3) 調査方法：各企業に対するアンケート調査。
- (4) 調査内容：①2019年下期（7～12月）に比べた2020年上期（1～6月）、および2020年上期に比べた2020年下期の自社の業績見通し
②2019年下期に比べた2020年上期の売上額、経常利益などの項目別見通し
③現在の企業経営上の問題点および今後重視する経営戦略
- (5) 調査時点：2019年11月中旬
- (6) 回答状況：調査対象企業773社のうち、有効回答をよせられた企業は303社で、有効回答率は39.2%である。

(注) B.S.I. (Business Survey Index) とは、企業経営者の見通しを数字であらわしたものの。前期に比べて上昇とみる…x、横ばいとみる…y、下降とみる…zについて、 $x+y+z=100$ とした時、 $B.S.I. = 2x+y-100 = x-z$ と定義。全員が上昇とみればB.S.I.は+100、全員が下降とみるとB.S.I.は△100になる。上昇と判断する人が多ければ多いほど+100に近づき、下降とみる人が多ければ多いほど△100に近づき、上昇と下降が同数（全員が横ばいとみる場合も含む）の場合、B.S.I.は0となる。

項目別見通し

□売上額減少とコスト増加により、経常利益は悪化予想

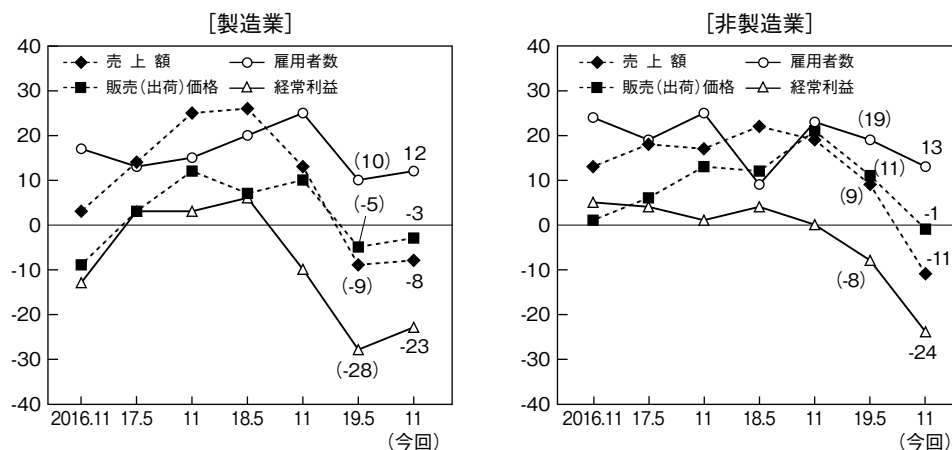
今後の見通しを項目別にみると、製造業においては、「生産量」（前回調査値△9→今回調査値△12、以下同様）や「販売数量」（△10→△13）が引き続き減少すると見ており、「販売（出荷）価格」（△5→△3）も下降するため、「売上額」（△9→△8）や「受注額」（△12→△14）はマイナスを見込んでいる（図表4、5）。加えて、「原材料（仕入）価格」（+35→+24）や「賃金」（+45→+56）の上昇により、「経常利益」（△28→△23）のさらなる悪化が見込まれる。

非製造業においても、「販売数量」（△6→△11）の減少に加えて、「販売（出荷）価格」（+11→△1）も下落し、「売上額」（+9→△11）はマイナスに転じる見通し。さらに、「原材料（仕入）価格」（+46→+28）や「賃金」（+49→+47）の上昇により、「経常利益」（△8→△24）は大幅に悪化する見込みである。

図表4 2020年1～6月の項目別見通し

[製造業]		B.S.I	項 目	B.S.I	[非製造業] (単位：%)	
減少・下降	増加・上昇				減少・下降	増加・上昇
30	22	△ 8	売 上 額	△ 11	35	24
22	19	△ 3	販売（出荷）価格	△ 1	21	20
35	22	△ 13	販 売 数 量	△ 11	32	21
34	20	△ 14	受 注 額	△ 12	33	21
34	22	△ 12	生 産 量	△ 20	33	13
10	34	24	原材料（仕入）価格	28	10	38
1	57	56	賃 金	47	0	47
16	10	△ 6	製品（商品）在庫数	△ 7	17	10
9	21	12	雇 用 者 数	13	8	21
18	21	3	設 備 投 資	2	21	23
21	12	△ 9	金 融 機 関 借 入	△ 9	23	14
41	18	△ 23	経 常 利 益	△ 24	40	16

図表5 主要な項目別見通しの推移（B.S.I.）



経営上の問題点

□「人手不足」に加え「売上（受注）不振」が経営課題に

企業経営上の問題点としては、製造業、非製造業ともに「人手不足」を挙げる経営者が最も多く、それに伴い「賃金（人件費）の上昇」や「生産（受注）能力の低下・不足」も、前回に比べて増加した（図表6）。

製造業では、「売上（受注）不振」（38.1%→46.1%）や「販売（出荷）価格の低迷」（25.4%→28.6%）の回答割合が増えるとともに、「諸経費（物流費、物件費など）の上昇」（50.8%→35.1%）や「原材料（仕入）価格の上昇」（44.2%→34.4%）などコスト増への対応も迫られ、収益の悪化が懸念される。

非製造業では、「人手不足」（65.8%→61.5%）が突出しているほか、前回調査と比べると「売上（受注）不振」（28.8%→39.9%）の割合が10ポイント以上も上昇している。

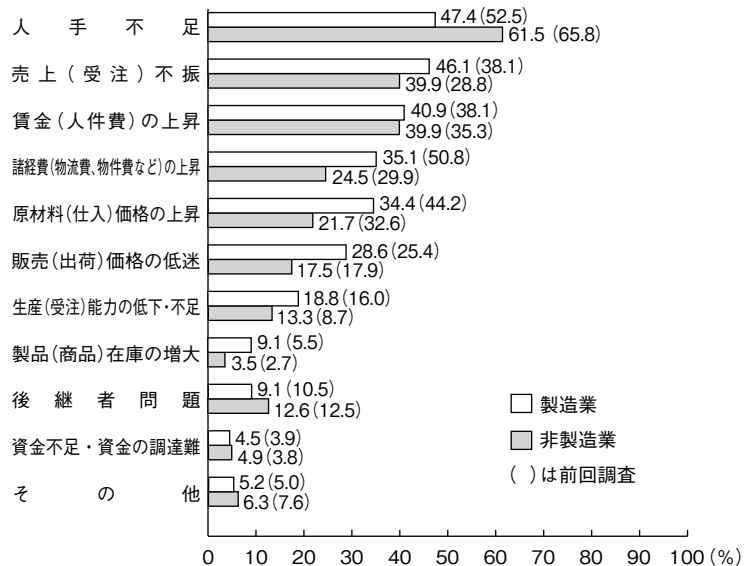
今後重視する経営戦略

□「生産（販売）能力の拡充」や「高付加価値化」による本業重視の姿勢

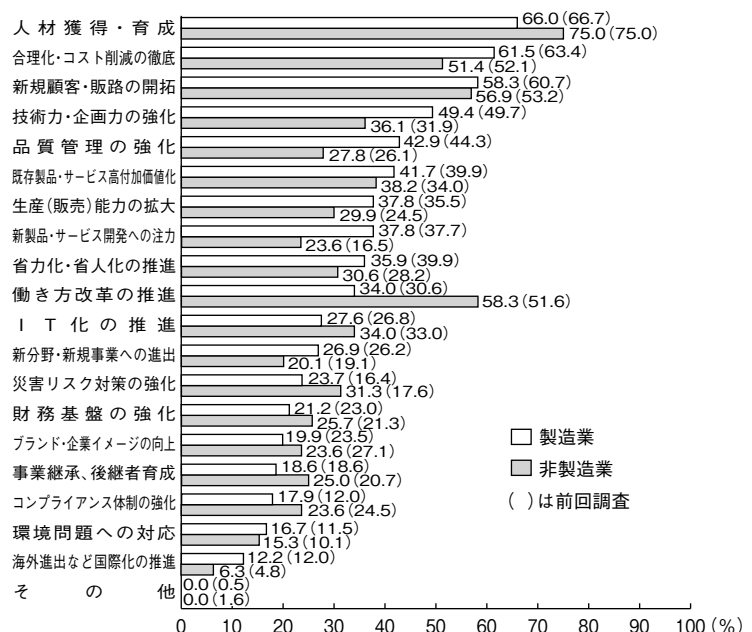
今後重視する経営戦略としては、製造業、非製造業ともに人手不足を反映して「人材獲得・育成」を挙げる経営者が最も多く、「働き方改革の推進」や「IT化の推進」など、生産性向上に取り組む姿勢もみられる（図表7）。また、先行きの売上不振を見越して「既存製品・サービスの高付加価値化」や「生産（販売）能力の拡大」など本業重視の意向がみられるほか、「災害リスク対策の強化」も前回調査より増加した。

以上のように、静岡県内企業経営者による2020年上期の景気見通しは、2期連続の悪化見通しとなり、2020年下期についても悲観的な見方が続く。慢性的な人手不足への対応に加えて、米中貿易摩擦等を背景とする世界経済減速による売上・受注の減少が、県内企業経営者のマインドにも色濃く影響している様子がうかがわれる。

図表6 現在の企業経営上の問題点（複数回答）



図表7 今後重視する経営戦略（複数回答）



（森下 泰由紀）

付表 2020年1～6月の業界景気、自社の見通し(B.S.I.)

業 種 項 目 (B.S.I.)	(前 回 業 界 景 気)	(今 回 業 界 景 気)	売 上 額	価 販 売 (出 荷 格)	販 売 数 量	受 注 額	生 産 量	(仕 入 材 価 格 料)	賃 金	在 製 品 (商 品 数)	雇 用 者 数	設 備 投 資	借 金 融 機 関 入 関	経 常 利 益
全 産 業 (303)	△ 10	△ 9	△ 10	△ 3	△ 12	△ 14	△ 15	26	51	△ 7	13	2	△ 9	△ 24
製 造 業 (157)	△ 17	△ 9	△ 8	△ 3	△ 13	△ 14	△ 12	24	56	△ 6	12	3	△ 9	△ 23
食料品(17)	△ 9	0	0	0	0	0	12	23	71	0	23	6	0	△ 23
繊維品(5)	0	40	40	40	25	25	25	40	80	25	20	0	△ 20	40
木材・木製品(13)	△ 22	△ 8	△ 15	△ 15	△ 15	0	△ 23	0	77	0	15	7	△ 16	△ 15
パルプ・紙・紙加工品(14)	22	0	15	22	△ 7	△ 8	△ 8	0	50	7	7	29	9	△ 8
出版・印刷(3)	0	△ 33	△ 33	△ 33	△ 33	△ 33	△ 33	33	67	0	△ 67	0	△ 67	△ 33
化学・ゴム製品(6)	△ 10	△ 33	0	0	△ 16	△ 16	△ 33	0	20	△ 20	17	△ 16	0	△ 33
窯業・土石製品(6)	△ 50	△ 16	△ 33	16	△ 33	△ 33	△ 33	100	17	0	0	33	△ 33	△ 33
鉄鋼・非鉄金属(5)	0	0	△ 40	△ 40	△ 20	△ 20	△ 20	40	0	0	△ 20	0	△ 20	△ 40
金属製品(11)	△ 57	△ 18	△ 37	△ 18	△ 37	△ 27	△ 20	64	55	△ 20	0	△ 9	0	△ 36
一般機械器具(27)	△ 26	△ 4	△ 8	△ 8	△ 4	△ 16	△ 4	23	54	△ 8	7	0	△ 4	△ 27
電気機械器具(8)	△ 17	25	38	△ 12	0	△ 37	△ 13	25	75	△ 25	38	0	△ 57	△ 38
輸送用機械器具(29)	△ 20	△ 24	△ 18	0	△ 20	△ 17	△ 17	21	69	0	14	△ 10	△ 7	△ 31
その他の製造業(13)	△ 33	△ 25	△ 8	△ 15	△ 15	△ 15	△ 15	15	31	△ 38	23	9	0	△ 9
非 製 造 業 (146)	△ 1	△ 10	△ 11	△ 1	△ 11	△ 12	△ 20	28	47	△ 7	13	2	△ 9	△ 24
建設業(28)	6	△ 7	3	7	△ 12	4	△ 18	44	57	△ 8	17	△ 11	△ 11	△ 18
卸売業(26)	5	△ 44	△ 56	△ 22	△ 50	△ 42	△ 50	9	40	△ 13	20	△ 22	△ 32	△ 44
小売業(27)	△ 24	8	4	0	8	△ 6	△ 22	4	38	12	4	11	8	△ 8
運輸・倉庫業(21)	△ 3	15	19	21	10	△ 6	△ 9	16	62	△ 7	33	28	5	△ 14
ガス業(4)	△ 20	0	0	△ 25	0	0	0	25	50	△ 25	0	0	0	△ 25
サービス業(32)	2	△ 9	△ 9	△ 7	△ 4	0	0	40	38	△ 9	9	20	△ 10	△ 25
ホテル・旅館業(8)	20	△ 38	△ 63	△ 13	△ 50	△ 75	△ 67	75	50	△ 50	△ 25	△ 50	△ 43	△ 75

※業種名の横の（ ）内の数字はサンプル数